

令和元年度(2019年度)本会員活動方針  
「浩志会 活用しなきゃ もったいない」

代表幹事 警察庁 小笠原和美

研究会員の皆さんにとっては、まだまだアツイ浩志会だと思いますが、  
「熱い議論を交わした研究会員時代は遠くなり、転勤や異動を期に、なんとなく浩志会とも疎遠になり、グループ活動のメンバーからも外れ、浩志会員といっても名ばかりだなあ…。」

そんな本会員さんにお伝えしたいことがあります。

「新たな人と出会い、学びができる、そんな浩志会を活用しないなんてもったいないですよ」

〈ちょっとご無沙汰気味の本会員の皆さんへ〉

- ◆ 退職後に「一緒にやろう」と言われるために、新しいものに触れるチャンスを逃してはもったいないです！まだまだ人生長く続きますよ。
- ◆ 「受け手」ではなく「与え手」としての参加の仕方もあります！何か発信したい方、ご相談ください。
- ◆ 関心が持てるような題材がない？関心事項をお知らせください！
- ◆ グループには参加していなくても、月例会やサロン、トップ懇など機会は色々あります！一度でもよいので、オリンピック・パラリンピックにちなんで新たな気持ちで浩志会に参加してみてください。

本会員の皆さん、折しも今年は「令和」という新しい時代を迎え、来たる2020年には56年ぶりに日本で行われる夏季オリンピック・パラリンピック大会が開催され、歴史的な祭典を機に世界中の人々が日本という国を知ることになります。

何かをリスタートするには、いいタイミングだと思いませんか？

ご家族のこと、仕事、ご趣味や習い事、友人とのお付き合い等々、人生の喜びや楽しみはもちろんおありだと思いますが、長く続く人生を彩るのは、出会いと学びです。今いる場所から一歩出て、ご関心が無いと感じるところも含めて社会の多様性に触れたり、年代を超えて自分の組織以外の人々の考えに触れられる、浩志会は、そんな変化を感じられる貴重な場です。

ややもすると、「世界はものすごく多様で複雑でいろいろなものであり得るにもかかわらず、設計された世界の中にいると、世界というのは固定していて変

化しないもののように見えてくる」といった状態に陥っていないか、チェックするきっかけにもできます。(2019年4月度月例会 東京大学安富歩教授の講演参照)

## 世界は、多様な存在であふれています

世の中には、多様な人々が暮らしています。赤ちゃんから高齢者までの年代の多様さ、男性・女性からトランスジェンダーなどの性の多様さ、身体的障害から精神的・知的障害など心身の機能や状態の多様さ、所得の多寡、学歴、仕事の種類、雇用形態、国籍の有無や人種、虐待や暴力、いじめ、差別の被害経験、震災などの被災経験、犯罪に加担してしまった経験、病気の罹患、引きこもり、ホームレス、宗教、居住環境、家族環境、等々…ここに書き尽くせませんが、様々な面で多様性があります。

そして、何を「ふつう」であるかと定義することによって、その「ふつう」というカテゴリーに含まれなかった人に「孤独」や「生きづらさ」を無自覚に生み出している可能性について、人はなかなか気付くことができません。

2018年8月の夏季全体研修会で板東久美子理事長・濱口治孝専務理事から「2050年のありたい姿に向けて～会員の皆さんへの呼びかけ」として提示されたように、我が国は危機感を持って迎えねばならない将来像に既に突入しています。人口減少社会の我が国において、一人一人が人との安心できるつながりを感じながら、伸び伸びと生きられる活力ある社会にするために、そして国際社会で誇りある国として立つために、これまで以上に「多様性」について目を向けて行く必要があるのではないのでしょうか。

個人的な経験ですが、親兄弟から性的虐待を受けた被害当事者の集まりを主宰している女性から、「少子化対策っていうなら、どうして政府は性的虐待や性暴力の予防対策にもっとちゃんと力を入れて取り組まないのでしょうか。子供の頃、イヤだと言っていいということを大人は教えてくれなかった。私は結局、夫との間に子供を持ってませんでした。そういう苦しみを感している人はたくさんいます。」と言われたことがあります。

「少子化対策」と「性虐待・性暴力予防」、「どうして大人は教えてくれなかったのか」という投げかけ。当時の私には思ってもみなかった視点でした。もし、周囲の大人が気付いて声を掛けたり、予め子どもたちに「イヤって言っていいんだよ、逃げていいんだよ、相談してね」と教えてあげられていたら、もしかすると教えていたのではないかと思わずにはいられません。子供は社会の宝なのに、想定外のことには対策も予防教育も広がらず、我が国では今も同じような状況が続いています。

様々な状況の中で生きる人々の存在に気づき、人や組織、国としての行動を変えていかない限り、一人一人が安心して、伸び伸びと生きられる社会は実現できません。それを動かしていくのは、私たち一人一人の認識の変化です。だからこそ、今、伝えたいのです。

### **浩志会では、多様な生の声が聴けます**

当事者はもちろん、多様な人々の存在を前提に動き始めている企業や団体、組織の方々の生の声を、浩志会では聴くことができます。

例えば、引きこもりの若者を戦力として生かしている企業、外国人社員の定着に成功している企業、障害のある人の芸術祭を主催する社会活動家、子どもへの暴力や虐待を防止するため子どもをエンパワーし大人に適切な対応を伝えるプログラム(CAP)を展開している団体、罪を犯して「前科者」のレッテルを貼られた若者に雇用機会を提供している企業や団体、虐待被害や親のDVを間近で見せられることによる脳の機能障害に取り組む研究者、原発事故の被災地で農産物と生産者農家の情報発信に取り組む高校生たち、中高生との対話の会を継続開催している浩志会員、等々、これらはあくまで一例ですが、当事者や当事者を取り巻いて様々な活動をしている人たちの生の声が聴けます。

皆さんの関心の高い分野があれば、その分野の人たちの生の声を聴きましょう。何かみんなを巻き込んで行動に移したいことがあれば、それも俎上に載せていきましょう。そんな風に浩志会は活用できます。

### **浩志会では、人とのつながりができます**

浩志会員は1,700人を超えています。そして浩志会の活動は、組織の中だけでは触れ合えない社会の多様な価値観や多彩な人々と接する機会にあふれています。そのような貴重な場に参加しないなんて、もったいないと思いませんか？

「会報で読んでもいいよ」という方もいるでしょう。確かに、浩志会事務局と担当幹事さんのご尽力により議事録化され、会報で共有されたりホームページで公開していただいている会合もありますが、議事録化されない会合もあります。そして会合に参加すれば、会員同士の会話も生まれます。

その場にいなければ双方向のコミュニケーションは難しい。その場に来なきゃ、やっぱり損です。

**「浩志会 活用しなきゃ もったいない」**

以上のことを踏まえ、この先一年間、会員の皆さんに「参加しなきゃもったいない」「参加して得た知見を所属する組織や周囲の人たちに共有したいな」と思っただけ、そして社会の多様性に繋がる場を、幹事団の力を得ながら数多く作っていくとともに、最近ちょっと浩志会活動から離れている本会員の方々にも積極的にアプローチさせていただき、浩志会自体の参加層の厚みも増していきたいと考えております。

これらをひっくるめまして、「浩志会 活用しなきゃ もったいない」を活動方針として掲げて参ります。どうか、本会員の皆さんのみならず、研究会員、OB・OG会員の皆様にも趣旨をご理解いただき、自らも浩志会の場に積極的にご参加いただくとともに、ご自身に連なる本会員の参加を促す働きかけなどもしていただければ幸甚です。

「世界で一番恐ろしい病気は、『孤独』です」というのはマザー・テレサの言葉の一節ですが、今後、様々な面で多様化が進む我が国において、人生 100 年時代を生きる我々にとって、この言葉は、個々人の人生の充実と社会の安定の両方につながるものだと思います。会員の皆さんには、浩志会活動への参加を通じて人とつながっていただき、できれば多様な当事者の生きやすい社会づくりのために、子ども・若者の輝かしい未来を拓くために、個人としても何か一歩踏み出すきっかけにさせていただきたい、そう願っております。

これより一年間、副代表幹事の大野佳幸さん(日立)、鈴木克宏さん(日本生命)と共に浩志会を盛り上げるため尽力して参ります。皆さんもご一緒に、全員参加で浩志会を盛り上げていきましょう。どうぞよろしくお願い致します。